

## (18) カリフラワー

病害虫	防除法	参考事項								
<p>根こぶ病</p>	<p>(耕種的・物理的防除)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 発病歴のないほ場を選定する。</li> <li>2 連作を避け、あぶらな科以外の作物と4～5年以上のサイクルで輪作する。</li> <li>3 発病ほ場では抵抗性品種を作付ける。</li> <li>4 遊走子が根に感染するためには水が必要であるため、ほ場の排水を良くする。</li> <li>5 水稲後作では高さ20～30cmの高うねとし、うね内の停滞水をなくす。</li> <li>6 地温が18℃以上で発病するため、は種時期や定植時期を調整する。</li> <li>7 pH7.2以上では発病が抑制されるため、土壌pHを矯正する。</li> <li>8 罹病残さから休眠胞子が拡散するため、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に持ち出して処分する。</li> <li>9 発病ほ場から耕うん機等を移動する際には、機械に付着した休眠胞子を取り除くため、土をよく払い落とし、丁寧に水洗する。</li> <li>10 ほ場内のあぶらな科雑草も伝染源となるため、除草を徹底する。</li> <li>11 地床育苗する野菜では、4～5年間あぶらな科作物を栽培していない、排水条件の良い場所に、は種床を設置する。</li> </ol> <p>(薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガスタード微粒剤/バスアミド微粒剤で土壌消毒する(<a href="#">共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項</a>を参照)。</li> <li>2 下記薬剤いずれかで防除する。</li> </ol> <table border="1" data-bbox="359 996 742 1294"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>オラクル粉剤</td></tr> <tr><td>オラクル顆粒水和剤</td></tr> <tr><td>ネビジン粉剤</td></tr> <tr><td>ネビリュウ</td></tr> <tr><td>フロンサイドSC</td></tr> <tr><td>フロンサイド粉剤</td></tr> <tr><td>ランマンフロアブル</td></tr> </tbody> </table>	薬剤名	オラクル粉剤	オラクル顆粒水和剤	ネビジン粉剤	ネビリュウ	フロンサイドSC	フロンサイド粉剤	ランマンフロアブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <a href="#">共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項(根こぶ病菌によるあぶらな科野菜根こぶ病防除)</a>を参照する。</li> <li>○ ラベル等で各薬剤の登録内容をよく確認してから使用すること。特に、複数の剤型、使用時期、使用方法、使用量で登録のある薬剤は、総使用回数に留意する。</li> </ul>
薬剤名										
オラクル粉剤										
オラクル顆粒水和剤										
ネビジン粉剤										
ネビリュウ										
フロンサイドSC										
フロンサイド粉剤										
ランマンフロアブル										
<p>菌核病</p>	<p>(耕種的・物理的防除)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 発病したら菌核ができる前に抜き取る。</li> <li>2 残さをほ場周辺に放置しない。</li> </ol> <p>(薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 発病を認めたら、下記薬剤のいずれかを散布する。</li> </ol> <table border="1" data-bbox="359 1512 742 1653"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アフェットフロアブル</td></tr> <tr><td>シグナムWDG</td></tr> <tr><td>トップジンM水和剤</td></tr> </tbody> </table>	薬剤名	アフェットフロアブル	シグナムWDG	トップジンM水和剤					
薬剤名										
アフェットフロアブル										
シグナムWDG										
トップジンM水和剤										
<p>黒腐病</p>	<p>(耕種的・物理的防除)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 あぶらな科作物の連作を避ける。</li> <li>2 種子は無病株から採る。</li> </ol> <p>(薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Zボルドー又はコサイド3000を散布する。</li> </ol>									

病害虫	防除法	参考事項
軟腐病	<p>(耕種的・物理的防除)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 3～4年間イネ科、まめ科の作物を作付ける。</li> <li>2 降雨直後に農作業をしない。</li> <li>3 発病株は見つけ次第取り除く。</li> </ol> <p>(薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 微生物殺菌剤                     <hr/> <b>薬剤名</b> <hr/>                     マスタピース水和剤                     <hr/> </li> <li>2 発病が予想されるときは下記薬剤のいずれかを7～10日おきに散布する。                     <hr/> <b>薬剤名</b> <hr/>                     Zボルドー                     <hr/>                     コサイド3000                     <hr/>                     スターナ水和剤                     <hr/> </li> <li>3 根や地際を害する害虫(ナメクジなど)を防除しておく (<a href="#">共通防除の章の共通病害虫の防除「ナメクジ・カタツムリの防除」</a>を参照)。</li> </ol>	

アオムシ、  
ヨトウムシ

**ヨトウムシ**

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫 ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 3 種に応じて交信かく乱剤を活用した防除を併用する。
- 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 BT 剤(下表)を活用した防除を行う。
- 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に 薬剤散布等を実施する。
- 4 結球野菜では、結球内部に食入した場合に防除が難しくなることから、結球前の防除を徹底する。
- 5 物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) **農業登録情報【アオムシ】・【ヨトウムシ】**

**【アオムシ】**

- 1 BT 剤

薬剤名
エスマルクDF
エコマスターBT
クオークフロアブル
サブリナフロアブル
ジャックポット顆粒水和剤
チューンアップ顆粒水和剤
デルフィン顆粒水和剤
トアローフロアブルCT
トアロー水和剤CT
フローバックDF

- 2 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。

薬剤名
モスピラン粒剤
ダイアジノン乳剤40
プレバソンフロアブル5
モスピラン顆粒水溶剤
アフーム乳剤
アクセルフロアブル
ファインセーブフロアブル
プロフレアSC

**【ヨトウムシ】**

- 1 BT 剤

薬剤名	備考
エスマルクDF	
エコマスターBT	
クオークフロアブル	
サブリナフロアブル	
チューンアップ顆粒水和剤	
デルフィン顆粒水和剤	シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウでの登録
トアロー水和剤CT	
フローバックDF	

病害虫	防除法	参考事項																
アオムシ、 ヨトウムシ	<p>2 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。</p> <p style="text-align: center;"><b>薬剤名</b></p> <hr/> オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤 ランネート45DF フェニックス顆粒水和剤 アクセルフロアブル プレオフロアブル プロフレアSC																	
アブラムシ類	<p>(薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報</a></p> <p>1 生物農薬</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">薬剤名(天敵名)</th> <th style="width: 40%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アフィパール (コレマンアブラバチ)</td> <td>施設栽培</td> </tr> <tr> <td>コレトップ (コレマンアブラバチ)</td> <td>施設栽培</td> </tr> <tr> <td>チャバラ (チャバラアブラコバチ)</td> <td>施設栽培</td> </tr> <tr> <td>テントップ (ナミテントウ)</td> <td>施設栽培</td> </tr> <tr> <td>カメノコS (ヒメカメノコテントウ)</td> <td>施設栽培</td> </tr> <tr> <td>ゴッツA (ペキロマイセス テヌイベス)</td> <td>施設栽培</td> </tr> <tr> <td>ブリファード水和剤 (ペキロマイセス フモンロセウス)</td> <td>ワタアブラムシでの登録</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 気門封鎖剤</p> <p style="text-align: center;"><b>薬剤名</b></p> <hr/> エコビタ液剤 オレート液剤 サフオイル乳剤 サンクリスタル乳剤 粘着くん液剤 フーモン ムシラップ	薬剤名(天敵名)	備考	アフィパール (コレマンアブラバチ)	施設栽培	コレトップ (コレマンアブラバチ)	施設栽培	チャバラ (チャバラアブラコバチ)	施設栽培	テントップ (ナミテントウ)	施設栽培	カメノコS (ヒメカメノコテントウ)	施設栽培	ゴッツA (ペキロマイセス テヌイベス)	施設栽培	ブリファード水和剤 (ペキロマイセス フモンロセウス)	ワタアブラムシでの登録	<p>○ 天敵昆虫製剤、天敵微生物製剤の使用上の留意事項</p> <p>1 天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、<a href="#">農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」</a>を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。</p> <p>2 アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。</p>
薬剤名(天敵名)	備考																	
アフィパール (コレマンアブラバチ)	施設栽培																	
コレトップ (コレマンアブラバチ)	施設栽培																	
チャバラ (チャバラアブラコバチ)	施設栽培																	
テントップ (ナミテントウ)	施設栽培																	
カメノコS (ヒメカメノコテントウ)	施設栽培																	
ゴッツA (ペキロマイセス テヌイベス)	施設栽培																	
ブリファード水和剤 (ペキロマイセス フモンロセウス)	ワタアブラムシでの登録																	
	<p>3 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。</p> <p style="text-align: center;"><b>薬剤名</b></p> <hr/> エルサン乳剤 ダイアジノン水和剤34 ダイアジノン乳剤40 アクタラ顆粒水溶剤 ベストガード水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤 ウララDF コルト顆粒水和剤 アクタラ粒剤5 ベストガード粒剤 モスピラン粒剤																	

コナガ

(予防に関する措置)

- 1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。本虫に対しては、1mm×1mmの目合いで効果が高い。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。
- 4 交信かく乱剤（下表）を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵や若齢幼虫が寄生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 生物農薬やBT剤（下表）を活用した防除を行う。
- 3 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 4 結球野菜では、結球前の防除を徹底する。
- 5 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 6 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 交信かく乱剤

薬剤名

コナガコン

コナガコンープラス

コンフューザーV

2 生物農薬

薬剤名(天敵名)

ボタニガードES

(ボーベリア・バシアーナ)

3 BT剤

薬剤名

エスマルクDF

エコマスターBT

クオークフロアブル

サブリーナフロアブル

ジャックポット顆粒水和剤

チューンアップ顆粒水和剤

デルフィン顆粒水和剤

トアローフロアブルCT

トアロー水和剤CT

フローバックDF

4 発生が予想される場合には、下記薬剤のいずれかを散布する。

コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避け、数群でのローテーション散布を行う。なお、既に抵抗性の発達している薬剤も認められるが、その程度は地域により差があるため、実際の使用状況から推測して薬剤を選択する。

薬剤名

モスピラン顆粒水溶剤

アニキ乳剤

アフーム乳剤

スピノエース顆粒水和剤

病害虫	防除法	参考事項
コナガ	ディアナSC アクセルフロアブル グレーシア乳剤 コテツフロアブル プレオフロアブル プロフレアSC モスビラン粒剤	
ネキリムシ類	(耕種的・物理的防除) 1 被害株の地際にいる幼虫を捕殺する。 (薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報</a> 1 下記薬剤を処理する。 <hr/> <b>薬剤名</b> <hr/> ダイアジノン粒剤5 ガードベイトA	

病害虫	防除法	参考事項													
<p>ハスモンヨトウ</p>	<p>・ <a href="#">共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項</a>を参照する。</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。</li> <li>2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。</li> <li>3 交信かく乱剤(下表)を活用した防除を行う。</li> </ol> <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。</li> <li>2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。</li> <li>3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。</li> <li>4 BT剤(下表)を活用した防除を行う。</li> <li>5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。</li> <li>6 作物残さを適切に処分する。</li> </ol> <p>(薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 交信かく乱剤             <table border="1" data-bbox="359 891 742 1003"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヨトウコンーH</td> </tr> <tr> <td>コンフューザーV</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>2 BT剤             <table border="1" data-bbox="359 1070 742 1301"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エコマスターBT</td> </tr> <tr> <td>クオークフロアブル</td> </tr> <tr> <td>サブリーナフロアブル</td> </tr> <tr> <td>デルフィン顆粒水和剤</td> </tr> <tr> <td>フローバックDF</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>3 若齢幼虫のうちに、以下の薬剤を散布する。             <table border="1" data-bbox="359 1361 742 1514"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エルサン乳剤</td> </tr> <tr> <td>プレオフロアブル</td> </tr> <tr> <td>プレバゾンフロアブル5</td> </tr> </tbody> </table> </li> </ol>	薬剤名	ヨトウコンーH	コンフューザーV	薬剤名	エコマスターBT	クオークフロアブル	サブリーナフロアブル	デルフィン顆粒水和剤	フローバックDF	薬剤名	エルサン乳剤	プレオフロアブル	プレバゾンフロアブル5	
薬剤名															
ヨトウコンーH															
コンフューザーV															
薬剤名															
エコマスターBT															
クオークフロアブル															
サブリーナフロアブル															
デルフィン顆粒水和剤															
フローバックDF															
薬剤名															
エルサン乳剤															
プレオフロアブル															
プレバゾンフロアブル5															

病害虫	防除法	参考事項						
<p>ナメクジ、カタツムリ類</p>	<p>(耕種的・物理的防除)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>野菜くずの捨て場等の発生源を除去する。</li> <li>ほ場の通風や排水を良好にし、地表部を乾燥させる。</li> <li>農作物の過繁茂を避け、収穫後の畑はできるだけ早期に整理する。</li> <li>畑周辺の小かん木、小竹などの茂みを伐採整理し、不必要な石積等は取り除く。</li> <li>畑周辺の清掃を図った上で、潜伏場所となるような濡れむしろ等を設置し、誘引捕殺する。</li> </ol> <p>(薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報【ナメクジ】・【カタツムリ】</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>粒剤は雨が降ると有効成分が流亡してしまうので、天候を見極めて活動直前の夕刻に処理する。ハウスや温室内では、2～3日間はかん水がかからないようにする。残効期間は短い。</li> </ol> <table border="1" data-bbox="359 638 1125 750"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スラゴ(磷酸第二鉄粒剤)</td> <td>温室・ハウス・ほ場・花壇</td> </tr> <tr> <td>マイキラー(メタアルデヒド水和剤)</td> <td>ほ場周辺雑草地の生息地</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名	備考	スラゴ(磷酸第二鉄粒剤)	温室・ハウス・ほ場・花壇	マイキラー(メタアルデヒド水和剤)	ほ場周辺雑草地の生息地	
薬剤名	備考							
スラゴ(磷酸第二鉄粒剤)	温室・ハウス・ほ場・花壇							
マイキラー(メタアルデヒド水和剤)	ほ場周辺雑草地の生息地							
<p>ダイコンシンクイ(ハイマダラノメイガ)</p>	<p>(薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>下記薬剤のいずれかを散布する。</li> </ol> <table border="1" data-bbox="359 862 742 1064"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エルサン乳剤</td> </tr> <tr> <td>フェニックス顆粒水和剤</td> </tr> <tr> <td>ディアナSC</td> </tr> <tr> <td>プロフレアSC</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名	エルサン乳剤	フェニックス顆粒水和剤	ディアナSC	プロフレアSC		
薬剤名								
エルサン乳剤								
フェニックス顆粒水和剤								
ディアナSC								
プロフレアSC								

病害虫	防除法	参考事項																
<p>オオタバコガ</p>	<p>・ <a href="#">共通防除の章のオオタバコガの防除の項</a>を参照する。</p> <p>(予防に関する措置)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。</li> <li>施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。</li> <li>本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。</li> <li>交信かく乱剤（下表）を活用した防除を行う。</li> <li>施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。</li> </ol> <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>発生子察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。</li> <li>寄生果を見つけ次第、除去する。</li> <li>食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。</li> <li>新芽や花蕾には卵や若齢幼虫がいることが多い。摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。</li> <li>BT剤（下表）を活用した防除を行う。</li> <li>作物残さを適切に処分する。</li> <li>蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたりほ場を冠水することで、土中の蛹を死滅させる。</li> </ol> <p>(薬剤防除) <a href="#">農薬登録情報</a></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>交信かく乱剤             <table border="1" data-bbox="363 987 742 1144"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>コナガコン</td></tr> <tr><td>コナガコンープラス</td></tr> <tr><td>コンフューザーV</td></tr> </tbody> </table> </li> <li>BT剤             <table border="1" data-bbox="363 1211 742 1592"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>エスマルクDF</td></tr> <tr><td>エコマスターBT</td></tr> <tr><td>クオークフロアブル</td></tr> <tr><td>サブリナフロアブル</td></tr> <tr><td>ジャックポット顆粒水和剤</td></tr> <tr><td>チューンアップ顆粒水和剤</td></tr> <tr><td>デルフィン顆粒水和剤</td></tr> <tr><td>トアローフロアブルCT</td></tr> <tr><td>フローバックDF</td></tr> </tbody> </table> </li> <li>発生が予想される場合には、下記薬剤を散布する。             <table border="1" data-bbox="363 1659 742 1738"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>アフファーム乳剤</td></tr> </tbody> </table> </li> </ol>	薬剤名	コナガコン	コナガコンープラス	コンフューザーV	薬剤名	エスマルクDF	エコマスターBT	クオークフロアブル	サブリナフロアブル	ジャックポット顆粒水和剤	チューンアップ顆粒水和剤	デルフィン顆粒水和剤	トアローフロアブルCT	フローバックDF	薬剤名	アフファーム乳剤	
薬剤名																		
コナガコン																		
コナガコンープラス																		
コンフューザーV																		
薬剤名																		
エスマルクDF																		
エコマスターBT																		
クオークフロアブル																		
サブリナフロアブル																		
ジャックポット顆粒水和剤																		
チューンアップ顆粒水和剤																		
デルフィン顆粒水和剤																		
トアローフロアブルCT																		
フローバックDF																		
薬剤名																		
アフファーム乳剤																		